蔵前ベンチャー相談室KITC第５回セミナー議事録

1．日　　時　　平成18年6月19日(月)

18:00～19:00　セミナー　田町CIC805号室

19:00～21:00　懇親会　産学連携談話室

2．タイトル　　「産学連携と大学発ベンチャーへの期待」

3．参加者　　35 名

4．講師　西村　吉雄氏　　早大客員教授　東工大監事

昭和 1971 年東工大博士電子　元日経エレクトロニクス編集長、東大教授、阪大特任教授を経て、現在早大客員教授　東工大監事

5．講演内容

（１）IT進展の三段階

第一段階　電子機器供給産業から他産業を電子化する段階
第二段階　垂直統合から水平分業へ（自前主義から連携協力へ）
第三段階　不特定多数を巻き込む（web2.0）

（２）第二段階における水平分業の特徴について

A．ネットワークは連携･協力を支援し、各社の強みを生かし多彩なアウトソースが増える

パターン①　　設計せず製造のみ行う

パターン②　　自分が設計を行い製造は行わない

この様な水平分業を日本の半導体企業は的確に対応できず、海外の有力企業に比べ競争力を低下させた。

B．小さな会社の不利が少ない　：　水平分業により得意技で勝負することができることから

→自分の得意技術を積極的にアピールしつつ、一方で知財のマネージメントをすることで勝っていくことが可能となる

→モジュール化という概念　：　起業のアピール方法として外はきれいに見せる、中身はブラックボックスにすると言う考え方

C．ネットワークの外部性　：　多様な強みを持った他社を持ってくること

ひとたび良いものができると独占が発生しやすく勝ち組がますます勝ちやすくなり、新規参入意欲が薄れる

D．水平分業型独占に参入していった例外事例　：　リナックス

リナックス的非営利活動は、利潤や投資回収とは違う価値によって動きうる。非営利活動における報酬は仲間からの尊敬である。特に着目すべき点はリナックスの中核は無料であるが、その周辺業務は産業であることである。

したがって全く違った価値判断の軸で動くリナックス開発はウィンドウズの独占に打ち勝つ可能性がある

E．オープンソースのリナックスの価値判断の考え方は産学連携の活動と非常によく似ている

大学の成果は公開された論文であり、今までの他人の成果の上に自分の成果を積み重ねていく作業であり営利を第一目的としていない。リナックスの例と同様に Peer（仲間）からの賞賛が報酬である。

Ｆ．中央研究所の時代から産学連携の時代へ

IT は中央研究所モデルとは違う形で進化しており、大学などとの連携派が非常に重要になってきている。特に他分野の例として化学やバイオは早くから大学と連携していた。

Ｇ．利潤の源泉は差　「差のないところに利潤なし」

知識の先取りによる差が最も安定した競争力である。

利潤を生み出す仕組み（資本主義の）三段階

ａ．地域や共同体の間の差(商業資本主義)　→　オープンな産業だとしたら競争相手が現れる→　仕入れ値が上がり売値が下がっていつかは平衡状態に達し利益が出なくなり終わる（資本主義の限界）

ｂ．労働生産性の間の差（産業資本主義）　～1970 までの日本、今の中国など

安い賃金で働かせて高い値段で物を売る　→　良質な労働者の確保のために賃金を上げる（平衡状態となる）

ｃ．知識の先取りによる差

人より先に知識を仕入れ人が誰も知らないことを作る（ポスト資本主義・ナレッジキャピタリズム)

Ｈ．知識を生み出す場としての大学が重要になる

大学とは出会いと交流のプラットフォームと考えられる。良質な知識は、さまざまな人の交流から生みだされる。

欧米の大学革命例　：　サッチャーが英国の大学に競争原理を導入

バイドール法案

→　結果として世界各地で大学が地域経済発展の中核になった

（３）第三段階　不特定多数を巻き込む（web2.0）

Ａ．従前までそれぞれの学会が別々にやってきていた論文評価に水平分業が入ってきている。

例）　商業企業が出版しているサイエンス、ネイチャーなどの学会誌

Ｂ．Web2.0 のパワー

科学者の成果は一般消費者に判断されないが、ほかの産業は一般消費者に判断される→学術論文はすべてブログの一種となるピアレビューなしに公開をすることで現在のネイチャー等の寡占状態を打開することができ、かつ、より適切な評価を得ることができるのではないか。

そのためのツールが web2.0 と呼ばれるブログなどである。

６．総評

産学連携と大学発ベンチャーへの期待について、西村氏独特の鋭い分析と提言がありました。これを受けて、ベンチャー企業社長、東工大教官、学生から活発な意見交換がありました。この議論は懇親会にも続き、このままで終わるのは惜しい、もっと徹底議論したいとの意見も出されました。懇親会も大いに盛り上り、大変有意義な問題提起型セミナーでした。

以上